

別添

見 積 条 件

1. 対象施設

設計対象施設の数量及び施設諸元は、以下に示すとおりとする。

堤防樋管 1 式

対象施設名称	位置	概要
堤防樋管	千葉県成田市新川	・形式：RC 造 B3.0m×H2.3m×2 連、長方形断面 ・延長：73.0m ・基礎：鋼管杭 φ 500、L=38.0m

2. 土木施設の耐震性能照査及び対策工法の検討

2-1 土木施設の耐震性能照査

2-1-1 設計条件の整理

過年度に同施設を対象に実施した耐震性能照査結果を参考に、設計条件を整理する。地盤定数や荷重条件について整理を行う。

なお、耐震性能照査に使用する設計水平震度は別途業務で算出したものを使用する。

2-1-2 地盤自重解析(レベル 2)

現況堤防断面において、レベル 2 地震動に対する耐震性能照査を行う。耐震照査における照査法は、地盤自重解析 (ALID*) によるものとする。

*ALID・・・2次元液状化流動解析プログラム

2-1-3 樋管部の耐震性能照査(レベル 1、レベル 2)

過年度に同施設を対象に実施した耐震性能照査結果を参考に、最新の基準に基づく条件設定により耐震性能照査を行う。照査法はレベル 1 地震動・レベル 2 地震動のいずれも応答変位法によるものとし、照査方向は縦断方向・横断方向とする。

横断工法の解析断面は、3 断面を想定する。

2-1-4 樋管基礎部の耐震性能照査(レベル 1、レベル 2)

過年度に同施設を対象に実施した耐震性能照査結果を参考に、最新の基準に基づく条件設定により耐震性能照査を行う。レベル 1・レベル 2 地震動のいずれも、樋管部の応答変位法による照査で得られた変位に対して、基礎部の照査を実施するものとする。

2-2 土木施設の耐震対策工法の比較検討

2-2-1 耐震対策工法の比較検討

過年度に同施設を対象に実施した耐震対策設計内容および耐震性能照査結果を元に耐震対策工法を比較検討する。

耐震対策工法は、考えられる工法を 3 案程度に絞った中から、仮設計画を含めた経済性、施工性、維持管理性、ライフサイクルコスト等を比較検討の上、決定するものとする。

2-2-2 構造計算

具体的な対策範囲と補強諸元について、耐震性能照査および安定計算(レベル 1、レベル 2)の検討を行

い、決定する。

2-2-3 図面作成

決定した耐震対策工法について、工事発注に必要な平面図、構造図等の詳細図を作成する。

設計図名称	縮 尺	備 考
位置図	1/10,000	
平面図・縦断図		
構造図		平面図、断面図、詳細図 補強構造配筋図、補強詳細図
付帯施設関連図		
構造物撤去復旧関連図		
仮設工関連図		平面図、縦断図、詳細図

2-2-4 施工計画立案

決定した耐震対策工法について、施工ヤードや支障物件等を考慮し、施工方法、工程計画、仮設計画（仮設計画に必要な構造計算等含む）、既設構造物の撤去・復旧計画等の検討を行い、最適な施工計画を立案する。

2-2-5 数量計算

決定した耐震対策工法及び施工計画に対して、工事工種体系及び土木工事数量算出要領に基づき、工種別に数量総括表及び数量計算書としてとりまとめる。

2-2-6 概算工事費積算

算出した数量を基に、各工種の単価を作成し、概算工事費を算定する。

2-3 照査

照査計画に基づき、業務の節目毎に照査を実施し、照査報告書の作成を行う。

2-4 点検とりまとめ

各設計項目の成果物の点検、とりまとめ及び報告書の作成を行う。また、適用した指針、基準等（正式名称を記載）を報告書に記載するものとする。